

## 相模湾地震災害状況放送劇シナリオ 7

避難場所 鵜沼中学校体育館 震災三日目 朝

時間 九時〇〇分

気温 八度 雨

課題 避難所としてボランティアとどう対応するか。ボランティアセンター  
ーとの調整はどう取るのか。

状況設定

市のボランティアセンターから紹介を受けてやってきた青年が、地域の人に相手にされなかった。避難所にも他県からのボランティアが徐々に到着し始めた。

### 【ストーリー】

登場人物

藤沢市子（ふじさわ いちこ） 高校生・愛称チーちゃん

中島 町内会長で避難所のリーダー

増田 町内会役員で食料物資班

川名 町内会役員で総務情報班

佐藤 藤沢市職員（避難所担当）

善行（女） 藤沢市の外郭団体・ボランティアセンターの担当

助川 ボランティアの青年

上空を飛ぶヘリコプターの音が聞こえる

### 【市子のモノローグ】

避難所生活も三日目、相変わらず報道関係のヘリコプターの音がうるさい。避難所でもテレビで災害状況が見れるようになったけど、震度がどうか震源の深さやゆれかたがどうだこうだって、専門家の分析と、「関東大震災以上だ、大変だ！大変だ」って騒ぐキャスターとコメンテーターの話、それに繰り返し映される映像ばかり。そんなことよりも私たちには、今これからどうするか、どうなって行くのか、そのほうがよっぽど重要な問題だわ。

私の家の外見は大丈夫そうなんだけど、中がメチャメチャ。お父さんが、どうにか家の中にもぐりこんで着る物とお金や預金通帳など貴重品を持ち出してきたけど、専門家による応急危険度判定が実施されたら、入れなくなるかもしれないっていった。

避難所の事務局では、ボランティアセンターの担当者と役員が打ち合わせをしている。私たちだけでは家の後片付けに何日かかるか分からない、誰か手伝ってくれると助かるんだけど。

ボラセン担当善行　それじゃ会長さん、ボランティアの受け入れについては、

避難所のニーズをまとめて知らせてください。

町内会会長中島　分かりました。こちらでも出来る事は自分たちでやろうと、準備を始めたところなんですよ。

避難所の事務局にボランティアの青年、助川がやってくる。

ボランティア助川　すみません、こちら避難所の事務局ですか。

食料物資班増田　はい、何でしょうか。

ボランティア助川　僕、助川といいます。藤沢市のボランティアセンターから紹介されて被災者のお宅を訪問したんですが、その人からすげなく断られました。こちらはやる気も体力も充分にあるのに、どうすればいいのか、どこで誰に聞いたらいいのかわからないのでここに

きました。

町内会会長中島 この施設でも、手伝える人や、技能を有している人を募っているところだ。避難所としてボランティアのニーズがあるか確認して、その状況によってはお願いするよ。住民からはいろんな苦情が出ているんでね。さし当たってこの避難所の仕事としては、トイレの清掃・水の運搬という声はある。(他の役員に向かって)他に何かお願いする仕事がありますか。

食料物資班増田 今届いた物資を屋根のあるところまで運んで欲しい。  
町内会会長中島 それと、助川君って言ったっけ、自分の食料は持参するよな。

ボランティア助川 はい。持ってきています。  
ボランティア担当善行 他の避難所は、ボランティアがきて喜んでいると聞きましたけど、その人に断られた理由をハッキリ教えて下さい。情報を収集してセンターの事務局に伝えたいですから。

食料物資班増田 身元のハッキリしない人には、手伝ってもらいたくないんじゃないの。善行さん、ボランティアの身分や仕事はセンターの方でちゃんと管理してトラブルのないようにして欲しいな。

ボラセン担当善行 しっかりしたボランティアが来ているので信頼して欲しいですね。

食料物資班増田 ボランティアの方は、まずボランティアセンターに登録して置く。それと食べ物も自前でよろしく。

ボランティア助川 それはちゃんとしていますし、飲食の事も承知しています。

行政職員佐藤 行政としては、各地からいらしたボランティアさん達にはボランティアセンターとの連絡を密にさせていただいていますし、宿泊と食事はセンターのほうで手配していますよ。

総務情報班川名 とところで、あなたは何が出来るんですか。  
ボランティア助川 ヘルパー2級を持っています。ボランティアセンターには登録してありますし、センターの指示で被災者宅に行っただんですよ。そこに行ったら、ボランティアのことは聞いていない、避難所に行ってくれていわれた。早く仕事をさせて下さい、もう二時間も無駄にしているんですよ。

ボラセン担当善行 大東町内から要請は来ていないわ。仲東町からも聞いていないけど・・・。センターの事務局に問い合わせ調べてみましょう。

総務情報班川名 せっかく善意できてくれるのだから、何も仕事が無

いというようなことはまずいですよ、時間を無駄にするようなことはすべきじゃない。会長にも言っているが、老人の面倒をボランティアの人に早く見てもらいたい。

食料物資班増田 老人とけが人を抱えて薬もなくなってきた。特に老人は「医者につれて行ってほしいが、見ず知らずの人に世話をしてもらうのは不安なので、いつものヘルパーさんを頼みたい」なんていつている。年を取るとわがままになるからな。

総務情報班川名 早くボランティアにきてほしいです。片づけなんかにも人手が必要だし。勝手にボランティアの人と交渉するのはどうもなあ・・・。直接ボランティアセンターに依頼すればいいですか。

ボラセン担当善行 避難所で必要なニーズを会長に伝えて、それをまとめてもらってボランティアセンターに報告してください。それに基づいてボランティアを派遣します。

町内会長中島 避難時より今の方が住民からの苦情は多いんだ。私の仕事は忙しくなるばかりだよ、苦情処理班でも作ろうかな。それはともかく、ボランティアが必要かどうかはボランティアセンターの方と行政が相談してやってくれ。

ボラセン担当善行 会長のご苦労もわかりますよ。私たちもボランティアセンターを立ち上げた以上、その役割は果たします。センターとして仕事の割り振りをボランティアに教えるためにもニーズ情報を早めにセンターに伝えて欲しいですね。

食料物資班増田 身元のしつかりした証明のついた人に来て欲しいな。  
町内会長中島 センターはボランティアに対して、しつかりした身分登録証明書と、仕事の内容票を発行しているのかい。

ボラセン担当善行 ボランティアセンターではボランティアの特技と人数を明記して把握しています。

行政職員佐藤 市当局としては、適材適所にお手伝いをしてもらおうと思っています。知らない人のボランティアは好まないと言うのなら、自分で解決してください。会長さんは、早く避難所の掲示板で知らせ、避難者の方々のニーズを把握してほしい。

ボラセン担当善行 今回のようなことがないように、地域の人と調整を取って、その人と一緒にボランティアを派遣したらどうでしょう。

町内会長中島 人数がまとまり派遣する範囲が確認出来しだい即協力しますよ。ボランティアの人を地域で紹介しながら手助けするやり方はいいと思うよ。

行政職員佐藤 避難所の中でも、特技と体力ある方や奉仕できる人は参

加して欲しいと呼びかけましょうよ。  
町内会長中島            わかった、早速始めよう。

それぞれ行動を開始する、ヘリコプターの音が通り過ぎてゆく。

#### 【市子のモノローグ】

被災地の人はどうしても落ち込んでしまいがちだけど、全国から来てくれるボランティアの人たちの活動と励ましで、やる気が出てきたみたい。特に以前災害に遭ったところから来てくださった人たちは、経験を生かした活動をしてくれるのでとても頼りになる。

本当に嬉しかったのは、お風呂が出来た事、暖房機や加湿器が増えた事、それと仮設トイレができたこと。お風呂は大勢だから毎日はいれないけどホッとするって言うか、避難所生活の中に活気が出て来たような気がする。

ストーリー7 終わり

地域発防災ラジオドラマ  
現状とドラマ（フィクション）との相違点

● 二〇〇九年現在、藤沢市には市内の公立学校等を中心に八十一か所の施設が避難所として指定されています。一定の規模以上の災害が発生すると各避難所にはあらかじめ担当が決められた市職員（複数名）が駆けつけ、避難所開設の準備をはじめます。このドラマでは停電して暗い中、あえて担当者が駆けつけられない（何らかの事情が発生した）と想定して、避難所担当職員がいない中で住民だけでどうするかを協議するシーンを作りました。

● 市内の公立学校については、おおむね耐震性が確保されている状況にあります。鵜沼中学校も耐震補強が完了してはいますが、いくら耐震補強があっても、施設に入る前には安全性を確認する何らかの行動があり、かつそこには地域の協働関係が象徴されると考えて、あえて議論されるシーンを作りました。なお、藤沢市の避難施設マニュアルには簡便な安全性チェックシー

トも用意されています。実際のシナリオワークショップでは、建物に少しでも不安があるときは、校庭で待機するほうがよいという意見が出たグループもありました。

● ドラマではわずかなシーンですが、ペットと離れられないと主張する住民と、避難所の関係者のやり取りが描かれています。ほとんどの避難所運営マニュアルではペットの持ち込みは原則禁止となっています。アレルギーがある人や動物が苦手な人がいる現状にかんがみて、避難所内にペットを自由に持ち込める状況にするのは難しいと思いますが、地域で何らかの工夫が出来るのか、事前に検討しておくことは可能だと思います。柏崎市ではペットと離れたくないという住民のために、避難所となった学校の駐車場に停めた車の中に入れたという事例もあるようです。藤沢市ではペットを専門に扱う事業者との協定を結んでいるところもあります。

● ドラマでは避難所運営組織の各役割が決まっているので、組織は順調に動いている形に描かれています。実際にはこの舞台となった鶴沼中学校地区の避難所運営体制の組織化は、まだ緒についたばかりでドラマ制作時点では個人々に役割があらかじめ決められているわけではありませんでした。鶴沼中学校地区防災連絡協議会では平成二十二年三月に避難所設営訓練を実施し、実際の場面になったら現場でどのような課題が生じるかを、実際に体を動かして検証・確認することが決定しています。

● 災害時の公的支援を効率的に行うためにも、避難所の実情をその都度、市の対策本部に送り、状況認識を共有化しておくことは重要です。誰がどこにいるかがわかれば、被災地外からの連絡や安否確認の際には大変都合がよいといえます。しかし最近の個人情報がらみのトラブルにかんがみて、住民の中には本当のことを書きたがらない人が出てくるかもしれないと考えてこの課題を設定しました。町内会・自治会で名簿が作成されていない（作成が難しい）地域が増えているようです。藤沢市の避難施設運営マニュアルには書式が定められていますが、そこに項目があるからすべて埋めると考えずに、それぞれの項目がなぜ必要かを住民自身で考え、判断することが重要であると考えられます。

● 鶴沼中学校地区ではいわゆる戸建て住宅からなる町内会・自治会だけではなく、一部のマンションの管理組合からなる自治組織が参加した形で防災連絡協議会を構成しています。防災連絡協議会に加入している自治会、管理組合の関係者間の合意形成には問題がないと思われませんが、地域のすべての共同住宅の居住者が参加しているわけではありません。したがってここで議論されたようにマンションによってはほとんど交流がないところも存在しています。

- 藤沢市では地域内住民を主体として、災害時のボランティア活動を支援するための組織藤沢災害救援ボランティアネットワーク(FSV)が活動しています。ここで取り上げたような課題の解決のためにも地元で活動するボランティアコーディネーターとしての役割が期待されます。